

# 1. 評価結果概要表

作成日平成 20年 12月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270135116
法人名	社会福祉法人 鳳彰會
事業所名	グループホーム ひこばえ
所在地	〒851-0253 長崎県長崎市早坂町1180番地7 (電話)095-821-7165

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年1月8日

## 【情報提供票より】(H20年10月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 15年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費・光熱水費22,000円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500円	

### (4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	71歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立療養所長崎病院 ・ 田上病院 ・ 十善会病院 ・ 弥生が丘中口内科医院 ・ 渡辺TOMO歯科医院
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地中心部より程近い、教育施設と住宅が点在する静かな高台に当ホームは立地している。広い敷地内に、特別養護老人ホーム、グループホームの建物が並んでおり、特別養護老人ホームにおいてはショートステイ事業を行っており、昨年度からはデイサービスセンターも開設、地域福祉の拠点となっている。医療連携も含め関連施設があることで入居者、家族からは安心と信頼が得られている。一昨年度よりの地域密着型サービスとしてのあり方への取り組みを確実に進めており、立地条件、地域性において少々困難な部分もありながら、運営推進会議を通じて連携を図り地域活動に前向きに参加し、小学校から短期大生にいたるまで近隣の教育機関との交流にも努めている。ホームの職員は若い年代の職員も多く、法人全体としても人材育成と離職防止に向けて法人内部の教育体制に考慮しつつある。共に生活するという入居者と職員共通の生活目標を掲げて日々の支援に明るく努めているホームであり、今後更なるサービスの質の向上に期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、改善に取り組んだ。改善項目の殆どが今年度内実施を目標に現在も検討中としているが、地域とのつながりにおいては前向きに各方面に働きかけを行い取り組みの成果が徐々に広がっている。同業者との交流においても同様に近隣の事業所との関わりから今後の発展に期待できる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者による記述となり職員全員での取り組みには至らなかった。自己評価を日々の支援の振り返りの場としてその意義を職員と共に再認識され、サービスの質の向上へ向けて活用されるように、全員での取り組みに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、入居者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。会議を通じて、課題としていた地域との関係も徐々に構築されており会議の活用がなされている。土日に開催することで、多くの家族に参加いただけるよう配慮しており、会議録を送付して情報開示にも努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は、通信の他に個別の近況報告を面会時や電話で随時行っており、家族の状況に応じて管理者は配慮しながら連絡をとり入居者と家族間の支援を行っている。運営推進会議に参加いただいた際には、その場を意見聴取の機会とするようにしており、それ以外に日常の面会時においても管理者、職員は意見、要望をうかがえるよう傾聴の姿勢を持っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を通じて情報収集などをおこない、積極的に地域活動に参加するべく努めている。地域の道路清掃に奉仕し、年明けには入居者と共に鬼火焚きの行事に参加することを予定している。法人としても地域活動に協力しており、バス停留所のベンチ寄贈などを行った。11月の「介護の日」に、近くの短期大学から福祉を学ぶ学生と教授がホームを訪問され、レクリエーションに参加していただき交流のひと時を持った。今後も継続した交流に期待を持っている。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は開設時に運営する法人内で考えられたものであり、『軽度の認知症老人に対し安定的な家族的雰囲気の中で認知症状の進展を緩和させ可能な限り自立志向に向けた介護を目指す』としている。加えて一昨年から地域密着型サービスとして理念に加味すべきことを模索し現在も検討中である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践のために、共同生活者として入居者と職員が共通認識を持とうと、職員が率先して作った生活目標がある。合言葉として「人に思いやりを持ちましょう。みんなと仲良くしましょう。よくかんで食べましょう。楽しく生活しましょう。」の文言が浸透しており、日々の支援と生活のよりどころとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて情報収集などを行い積極的に地域活動に参加するべく努めている。地域の道路清掃に奉仕し、年明けには入居者と共に鬼火焚きへの参加も予定している。法人としても地域活動に協力しており、バス停留所のベンチ寄贈など行っている。11月の「介護の日」に、近くの短大から教授と学生が訪問しレクリエーションに参加する交流があった。今後の継続した交流に期待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度も職員全員での自己評価への取り組みとはならなかったが、今回も管理者が記入しており、職員は共に取り組んでいない。改善計画シートを作成し評価を受けての取り組みはなされたが、職員への周知と協働はなされていない。		自己評価の意義を理解し、全職員で取り組まれることが望まれる。実施項目をそれぞれの気づきを交え記入することで日々のケアを振り返り、さらに今後取り組みたい項目を挙げていく過程は、職員育成へとつながる機会と捉え、サービスの質の向上へ繋げていかれることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。会議を通じて課題としていた地域との関係も徐々に構築されており会議の活用がなされている。土日に開催することで多くの家族へ参加いただけるよう配慮し、会議録を家族へ送付するなど情報開示にも努めている。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会が仲介してのホームへのボランティア活動希望に関して、積極的に受け入れを表明している。今年度は受け入れはなかったが、今後も社会福祉協議会と連携を図りながら前向きに取り組みたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の通信「ひこばえだより」は、行事の様子他に日常生活の様子も写真と共に伝えており、家族へホームからの季節に応じたお知らせや職員紹介と情報が満載で様子がよく伝わるものである。個別の近況報告は面会時に伝え、必要時や面会の少ない方には管理者が配慮して電話連絡を欠かさず行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を全家族へ呼びかけ、その場を家族からの意見聴取の場として意見、要望をうかがうことにしている。また面会時にも、なるべく要望など引き出せるよう管理者、職員は意見傾聴の姿勢をもって家族と接するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動があり、11月には職員の離職に伴い法人内のデイサービス施設より職員の異動があった。入居者への影響を配慮しながら、自己紹介から始めて馴染みの関係を築くよう努めている。法人内管理者会議において異動による引継ぎなど職員育成面も考慮し、職員による新人教育係設定を検討、準備している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては、職員が平等に機会があるよう考慮して希望を募り交代で参加している。内部研修は、前年まで行われていた法人内研修が現在開催されておらず殆ど機会がない状態である。職員は業務の中で折に触れ管理者に指導を受けることも多い。		異動による引継ぎの対応に加え離職を防ぐ取り組みとして、法人全体で新人教育係を設定されるというこの機会に、従来行われていた毎月の法人内研修が再開されることに期待したい。ホーム内においても処遇会議の時間内で事例検討などの内部研修に取り組まれるなど、若い職員にとっての学びの機会がサービスの質の向上へ繋がっていくことに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度評価によって改善計画に挙げていたが、連絡協議会加入は管理者の多忙による事情もあり、検討中である。近隣の事業所とは連携をとっており、今後職員も含めての交流を前向きに考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずはホームを見ていただくこととして、家族に居室を見学して頂き説明の上、可能な方には入居予定者本人に来ていただくようにしている。対応には管理者と担当予定の職員があたり馴染みながらのサービス開始に配慮している。2,3ヶ月の試験的な入居も考慮に入れて、居室で使用するベッドの貸し出しをしたりと柔軟できめ細やかな支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>なるべく個別の対応をと心がけ、対話の時間を持つようにする中で、若い職員は入居者から学ぶことも多い。共に歌う童謡の歌詞にある古い言葉の意味を教えたり、同様にテレビを見ていてまだ職員が知らない知識を教えたりと、人生の大先輩からの学びを一つ一つ自身の糧としている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認定調査票のフォーマットを利用して、情報提供により生活歴や価値観及び課題分析表をまとめており、半年に1回見直しをして把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>処遇会議においての意見交換や申し送りノートなどの記録の活用、家族や本人の要望があれば考慮して介護計画作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(6ヶ月)や状態変化に伴う随時の見直しを行い、毎月の処遇会議においてケアプランに対するモニタリングと評価を実施し、介護計画の遂行状況を把握している。</p>		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内関連施設において、状況、状態に応じたホーム退居後の次の選択も可能であり安心が得られやすい。ホームにおいては外泊支援もなされ、また家族の宿泊も柔軟に対応したいとしている。家族の要望に応じての通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族とも納得、同意の上で、ホーム協力医療機関を主治医とされている。協力医である歯科は往診も可能で、年に1回、提携内科医により健康診断を入居者全員に行っている。受診結果は面会時に口頭で、或いは電話で家族に報告し、介護記録に記録している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状においては重度化、終末期は、家族とホームで話し合い、同意の上で生命優先として病院へとしている。提携医の夜間の協力体制や緊急時対応マニュアルも作成されているが、医療的ケアも含めた支援において職員もまだ経験において未知数で管理者に負うところが大きい。今後はホームとして出来ること出来ないことを見極め、家族と話し合い方針を決定したいとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修において言葉遣い、声かけについては職員心得として指導の機会があり、その後は日々の支援の中で「親しき仲にも礼儀あり」をもって、管理者から職員に個別に注意しながら向上を図っている。記録物など書類は事務所にて管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間はほぼ入居者が同じ時間となっているが、あとは思い思いに過ごしていただくようにしている。レクリエーションの時間は決めてはいるが、参加は入居者の意向で自由にいただいている。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養バランスを考えた調理、衛生管理に配慮すべきとの理由で、法人内施設の栄養士、調理師の管理指導のもと作られた食事が三食とも運ばれている。訪問調査時も職員は介助をしながら傍で立っての見守りであったり、食器返却の為に早々に後片付けにかかったりと、食事を共にすることはなく会話も少なく落ち着いた印象は否めなかった。その点を補うべくおやつは職員が手作りで提供し、共に楽しむ支援を行っている。		食事は「家庭的雰囲気」において重要な役割を果たす場面であり、調理の際の香りや音、準備や後片付けに伴う手伝いの場面であったり、食卓で交わされる会話など五感に訴える全てがグループホームなればこそその支援といえる。食事を楽しむ支援を再認識し、法人内でも検討いただいて、調理に関して職員への指導、育成を重ねながら前向きに取り組まれることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、月、水、金曜日としているが、清潔保持の為に随時の対応もなされている。入居者の希望に応じての柔軟な対応も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事計画を立てて、季節を感じられる行事、月毎の誕生会を楽しんでいただいている。個々においては読書、裁縫、カラオケ、レクリエーションを楽しまれ、出来る力に応じて洗濯物たたみ、ゴミだし、居室の掃除など家事に参加いただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	すぐ近くに地域の方も多く利用する産直の食品などを扱う店があり、買い物に出かけたりしている。日常の散歩にも応じるようにしているが、時にはドライブへ出かけるなどの家族の支援もいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はしていない。外へ出られた際は職員はもちろん、法人内施設の職員の見守りをもって対応している。外出を希望される入居者には出来る限り対応し、建物前の広い駐車場を散策している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いのもと訓練を行っている。今年度5月には特養施設との合同訓練を実施し、12月には夜間想定での訓練を予定している。入居者も可能な方に1名参加いただき、防火管理者である管理者は「反復が大事」と述べて、職員に訓練の重要性を伝え、新人職員が必ず漏らさず訓練に参加できるよう配慮している。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内施設の栄養士により個々の職員の栄養知識に関して指導をおこなっている。食事は、調理した状態で法人内施設より運ばれてくるが、医師の指示のもとに入居者の状態に沿って減塩醤油の使用や、嗜好品、量の加減などの調整をする場合もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	眺めのよい広い窓から明るい日差しが注がれるリビング兼食堂を中心にバリアフリーの畳の談話室、オープンキッチンと、開放的な空間である。窓外のベランダからは隣接の特養施設への行き来が可能であり、合同行事参加の際は歩いて移動可能な入居者が利用したり、災害時の避難経路としても有効である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に備え付けてあるのはエアコンと照明器具とシンプルなものだけに、持込の品が多くなり必然と「その人らしい」部屋作りが家族の協力のもとにできている。ベッド(希望される方には畳持込で布団も可)、タンス、家族が来られた時に居室で寛げるソファ、趣味のものが多く見られた。ナースコールも用意されているが殆ど使う方はいない		